

田舎を守るのは大変なの!

大深山集落、水路の点検・機能診断に密着

長野県立科町・宇山810会

写真=曾田英介 文=編集部



この水路が
壊れて困ってる。
多面で直して
ほしいんだよね。

左図10の場所

この春から、宇山地区農地水保全会の名称が変わった。その名も「宇山810会」。「うやまハッテンかい(発展会)」と読むそうだ。地区の標高平均810mから発想し、練りに練ってみんなで作った自慢のネーミングだ。

810会は、宇山地区5集落(石川・立石・日中・大深山・蟹窪)から成る多面的機能支払の活動組織。全部で183戸、年間の交付金は370万円くらいと、決して大きな組織ではないが、毎週のようにどこかで何か活発に活動している。

春先はまず、水路や農道などの点検・機能診断だ。集落ごとに役員たちが回って回り、今年度、そして今後5力年のうちに工事が必要な箇所を洗い出す。自分たちで「自主施工」できそうなところと、業者に工事を頼んだほうがいいところ(長寿命化)とを判断。5月末の810会の総会で、集落ごとの予算配分や工事の順番を決めるのにも必要な活動だ。

4月20日、大深山集落の水路の点検・機能診断に同行させていただいた。



大深山集落の機能診断
当日の巡回ルート



▼巡回ルート上の番号①～⑫は、次ページからの写真に対応。

▼幹線水路（宇山堰）の水源は約40km南の蓼科山。江戸時代に開削され、昭和40年代の大工事で地下パイプ化（ヒューム管）された。宇山5集落を次々通るが、大深山では、手前の山のてっぺんにある若宮樹からいったん下り、向いの山の中腹までサイフォンの原理で自然に上がる（p82も参照）。

水

の恵みだあ？」

取材の趣旨を伝えると、大深山集落の通称「土木部長」小池英俊さんにスイッチが入ってしまった。

「田舎を守るのは大変なんですよお。わかってくれますかあ？」

大深山はその名の通り、宇山5集落の中でも一番山が深く、そして水に恵まれている。山肌のあちこちから常時ジワジワと水が湧くような集落なのだ。

「『水が豊富でいいですね』って言われますが、水が多いってのは土砂崩壊のリスクがあるってこと。ほらここ、2年前の集中豪雨で土が崩れたところ（地図中①）。この3月末に、ようやく自分で重機で直しました。土留めして杭はそこらじゅう打ったけど、草が生えるまでは心配だなあ。雨が降ったら冷や冷やですよお」

「こっちは、棚田の横でジメジメの沢だったところ（地図中②）。地下に排水パイプを埋めて歩けるようになりました。ああそれは、オヤジが植えてたワサビの名残り。沢と一緒にほとんど埋めちゃった。え？もったいないって？ 地下パイプ化したおかげで、泥が流れて地面が荒れることもなくなりましたよお。田舎の苦勞をわかってくださいよお」

「4年前に父が亡くなって、自分がこを守らなきゃならなくなりました。この集